

フォレスト ウィンズ Forest Winds

No.8 2002年3月

もりからのかぜ・東北



独立行政法人・森林総合研究所・東北支所



ブナ帯環境変動解析棟

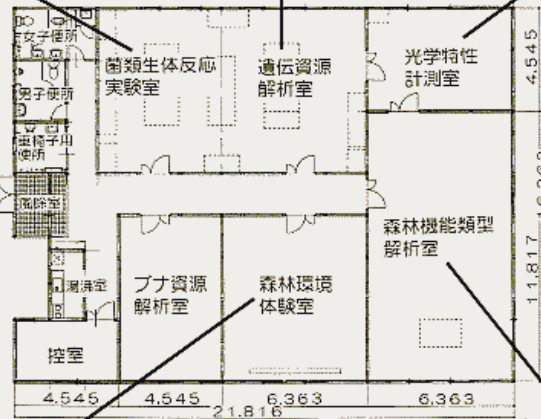
東北支所に新たな研究施設が完成

森林総合研究所・東北支所では、白神山地に代表されるブナ林を含むさまざまな森林を対象として、多方面の分野からの研究を進めてまいりました。とくに最近では、森林における二酸化炭素の収支機能、広域的なブナ林の分布と現存量の変動、森林のもつ環境教育機能の評価、森林を核にした生物多様性の把握などの研究に精力的に取り組んでいます。この間、大量のデータや試料が蓄積され、これらを効率的に解析・分析して、成果のとりまとめを加速するために、新鋭の研究設備や研究スペースが必要となっていました。このほど、長年の念願がかない、新たな研究施設「ブナ帯環境変動解析棟」を完成することができました。

新施設の整備にご理解・ご支援をいただきました皆様に心からの御礼を申し上げますとともに、この施設の概要を報告いたします。



【ブナ帯環境変動解析棟】

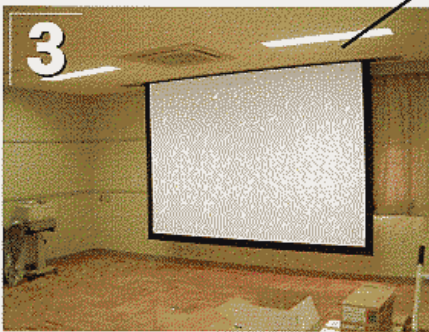


構造：木造平屋建て

床面積：351.44㎡

主な設備

安全キャビネット（1台）、ドラフトチャンパー（1台）、クリーンベンチ（1台）、中央実験台〔ガス湯沸器、流し台付〕（2台）、中央実験台（4台）、純水製造装置（2台）、流し台（1台）、サイド実験台（4台）、吊り戸棚（1台）、電動スクリーン（1台）、情報通信設備（HUB 9個、ラック1台、情報コンセント66口など）



- 写真1：遺伝資源解析室と菌類生体反応実験室（DNAの解析や微生物の生体反応を観察する）
- 写真2：光学特性計測室（木の葉や樹冠の光学特性を測定する）
- 写真3：森林環境体験室（スクリーンにさまざまな森林を映写し、心身の反応をみる）
- 写真4：森林機能類型解析室（さまざまなリモセンデータや森林統計が分析される）



ブナ帯環境変動解析棟においては…

以下のような研究を展開していきます。

- ①ブナ林を中心とした森林の分布現況と資源量をリモートセンシング・データを基礎に解析します。
- ②ブナ林などに生息・生育する生物種の遺伝的多様性をDNAレベルで解明します。
- ③ブナ林を中心とした二酸化炭素濃度の変動に応じた微生物の動態を分析します。
- ④ブナ林などさまざまな森林環境での人の心身反応を解析し、環境教育の役割を評価します（フォレストウインズNo.6, 2002年）。
- ⑤ブナ林の反射スペクトルの季節的変化と炭素固定能との関係を明らかにします。
- ⑥森林統計資料の解析から森林資源のデータベース化を行います。

期待される成果

気候変動や森林破壊、生物多様性の喪失などの地球環境問題が深刻さをます今日、二酸化炭素の固定、生物多様性の維持、森林資源の維持、環境教育などの分野において、東北地域のブナ林を中心とした森林が果たす役割は、今後ますます重要です。わたしたちは、完成した「ブナ帯環境変動解析棟」を活用し、これらの役割や機能を分析、評価し、その研究成果を積極的に社会に還元していきたいと考えています。

森林総合研究所・東北支所

● 庶務課 ●

〒020-0123 盛岡市下厨川字鍋屋敷92-25
TEL 019-641-2150 FAX 019-641-6747